

**環境経済学特論**（2単位）

担当者氏名 黒瀧 秀久、菅原 優

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

地球環境問題から地域の環境問題まで含めた現在人類が直面する地球環境問題を、経済学的・政策的・社会的に追究し、地球環境問題発生メカニズムを理解する。特に、地球環境問題を分析するにあたっては、“人間と自然の間の物質代謝”関係を把握することが重要となることから、「物質代謝論」の基礎理解を目標とする。また、環境経済学研究において積極的に議論されている「コモンズ論」や「環境ガバナンス論」など学ぶなかで、広範かつ複雑化する地球環境問題を体系的に捉える能力を養う。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

物質循環論	環境史	自然・資源管理	持続可能な社会
グリーン・ニューディール	エコ・ビジネス	環境ガバナンス	コモンズ論

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	地球環境問題における環境経済学研究の課題 (第1～4週)(担当 黒瀧秀久)	環境経済学研究の諸系譜と課題について学び、“人間と自然との物質代謝論”概念を理解するとともに、環境社会経済史のから分析する。	◎準備学習としてレジュメを作成して報告し、講師に質問をするなどして授業内容を理解するように努めること。
2	地球環境問題と環境政策研究の課題(第5～8週) (担当 菅原優)	現代の社会経済構造と環境政策の動向について学び、グリーン・ニューディールをはじめとした環境政策など現代の環境政策の動向を把握する。	◎また、講義で配付された資料等については、講義後、復習をすること。
3	持続可能な社会と環境・資源管理(第9～12週) (担当 黒瀧秀久)	持続可能な社会と環境・資源管理についてコモンズ論や環境ガバナンス論を学び、今日展開される環境政策の諸矛盾を明らかにする。	
4	環境産業の展開と社会運動の展開(第13～15週) (担当 菅原優)	エコ・ビジネスや環境問題に対応した社会運動の動向を分析し、持続可能な社会にむけた企業や市民のあり方を検討する。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名/著者/発行所(発行年)

『リーディングス環境 第5巻 持続可能な発展』/淡路剛久ほか編/有斐閣(2006年)

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

『環境経済学をつかむ』/栗山浩一・馬奈木俊介/有斐閣(2008年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

毎回のレポートにて評価する

◆オフィスアワー

毎週金曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなく、自ら理論を創造するという態度で授業に参加してほしい。